



TITLE:

天象 (日食報告號)

AUTHOR(S):

CITATION:

天象 (日食報告號). 天界 1936, 16(184): 413-414

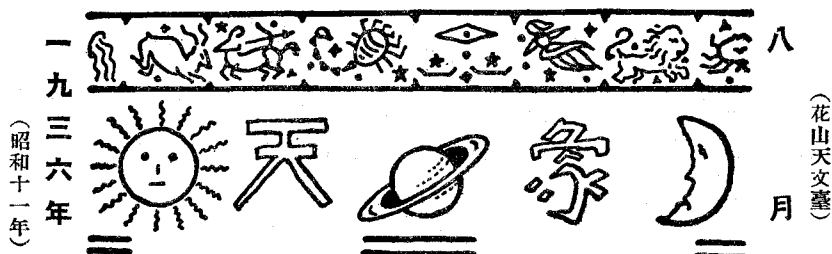
ISSUE DATE:

1936-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167268>

RIGHT:



I——太陽と月 (天空の明暗)

日付	日出 (星 座)	日 没	日付	夜半の月 齢	月 出 (星 座)	月 没
日	時 分	時 分	日	日	時 分	時 分
1	5: 6 (か に)	19: 0	1	13.4	17: 30 (い て)	2: 48
6	5: 9 ”	18: 55	2	14.4	18: 13 ”	3: 51
11	5: 13 ”	18: 50	3	15.4	18: 52 (や ぎ)	4: 58
16	5: 17 (し し)	18: 45	4	16.4	19: 27 (みづかめ)	6: 4
21	5: 21 ”	18: 39	5	17.4	20: 1 ”	7: 13
26	5: 25 ”	18: 32	6	18.4	20: 34 (う を)	8: 21
31	5: 28 ”	18: 26	7	19.4	21: 8 ”	9: 30
			8	20.4	21: 45 ”	10: 40
			9	21.4	22: 29 (ひ つ じ)	11: 48
			10	22.4	23: 16 (を う し)	12: 56
			11	23.4	— ”	14: 1
			12	24.4	0: 8 ”	15: 2
			13	25.4	1: 4 (ふ た こ)	15: 56
			14	26.4	2: 6 ”	16: 42
			15	27.4	3: 9 (か に)	17: 23
			16	28.4	4: 12 ”	18: 0
			17	29.4	5: 12 (し し)	18: 31
			18	0.9	6: 12 ”	18: 59
			19	1.9	7: 10 ”	19: 27
			20	2.9	8: 6 (を と め)	19: 54
			21	3.9	9: 1 ”	20: 22
			22	4.9	9: 58 ”	20: 53
			23	5.9	10: 53 (てんびん)	21: 28
			24	6.9	11: 50 ”	22: 6
			25	7.9	12: 46 (さ そ り)	22: 49
			26	8.9	13: 40 (へびつかひ)	23: 38
			27	9.9	14: 32 ”	—
			28	10.9	15: 19 (い て)	0: 33
			29	11.9	16: 4 ”	1: 33
			30	12.9	16: 44 (や ぎ)	2: 33
			31	13.9	17: 22 (みづかめ)	3: 44

II——天象

日 時	天 象
1, 22	水(北 0.4°)と金と合
6, 15	土(南 8°)と月と合
11	木星が停留
15	天王星が停留
15, 23	火(北 4°)と月と合
16, 1	水(南 0.8°)と海と合
18, 22	金(北 7°)と月と合
19, 16	水(北 5°)と月と合
24, 5	金(北 0.4°)と海と合
26, 17	木(北 2°)と月と合

満 月 8月25日14時49分
 新 月 8月10日 5時59分

下 弦 8月 3日12時47分
 上 弦 8月17日12時21分

主 な 流 星 群

日 付	赤 緯	赤 緯
8 日	42°	$+57^\circ$
16 日	52°	$+58^\circ$
8月—9月	346°	0°
6月—8月	310°	$+61^\circ$
中旬—下旬	290°	$+53^\circ$

附近の星

ペルセウス座
 ペルセウス座
 魚 座
 セフェウス座
 白 鳥 座

性 質
 速痕} 顕著
 速痕}
 緩
 速

遊 星 界 (8月)

水星 蟹座から秋分点(乙女座)のあたりまで順行する。宵の星になつた。月末ほど太陽から離れるから、宵の西空に見易くなる。19日には月と合の位置になる。鎌のやうに細い月と仲好しの輝星の微笑、これが炎暑に苦しむ私達への親切な贈物である。

金星 位置は宵で、水星よりも太陽に近い。光度は-3.4等であるから、小望遠鏡の所有者は日没後の西天を捜してみるのも一興。

火星 暁の東天にある。観望には適しない。位置は蟹座。

木星 初夏の頃から親しまれてゐる南天の輝星。日没後、空がまだ明るいのに、早くから、「一番星」として登場する。位置は赤いアンタレス星のすぐ東、殆んど動かない。光度は幾らか弱くなつた。

土星 位置は水瓶座と魚座との境界近く、殆んど動かない。光度も7月に比して強くなり、早く東天に見られるやうになつた。この愛嬌星も大切な鉢巻を天の河原におき忘れ、今さがしてゐるとき。

天王星 暁の星。牡羊座にある光度6等、肉眼では見られない。望遠鏡でさがすと面白い。等光度の彗星よりも見易いのではあるまいか、微星を求める快味は経験者のみが知る。

海王星 宵の西天にわづかに見える位置にある。月末は全くダメ。獅子座の8等星である。

冥王星 もう蟹座に入つてゐるのであらうか、悠久な運行をつづけてゐる。眼をつむつて考へてゐると太陽系の大がわかる。一度見たいが、どうも縁がうすい。

ペルテヤ彗星と下保彗星 位置は花山急報を見よ。

×

×

×

星座 西の空にわづかに残つてゐる春の星座もやがて退いて、團扇で招いた涼しい風が浴衣の袖から躍りこむ頃になると、雄大な銀河が天頂にかかる。星座の美を知るに絶好期。解説するさへヤボ。時の流れを忘れ、東天にプレヤデスを迎へてやつと安心する。間もなく柱時計が1時を報じる。